

デーヴォ ガイド



2024.4.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

2:36 王は人を遣わしてシムイを呼び寄せ、彼に言った。「エルサレムに自分の家を建て、そこに住むがよい。だが、そこからどこへも出てはならない。

2:37 出て行ってキデロンの谷を渡った日には、おまえは必ず死ななければならないと覚悟しておけ。おまえの血の責任はおまえ自身の頭上に降りかかるのだ。」

2:38 シムイは王に言った。「よろしゅうございます。しもべは王様のおっしゃるとおりにいたします。」このようにしてシムイは、何日もの間エルサレムに住んだ。

2:39 それから三年たったころ、シムイの二人の奴隷が、ガテの王マアカの子アキシユのところへ逃げた。シムイに「あなたの奴隷たちが今、ガテにいる」という知らせがあったので、

2:40 シムイはすぐ、ろばに鞍を置き、奴隷たちを捜しにガテのアキシユのところへ行った。シムイは行って、奴隷たちをガテから連れ戻した。

2:41 シムイがエルサレムからガテに行って帰って来たことが、ソロモンに知らされた。

2:42 すると、王は人を遣わし、シムイを呼び出して言った。「私はおまえに、【主】にかけて誓わせ、『おまえが出て、どこかへ行った日には、おまえは必ず死ななければならないと覚悟しておけ』と警告しておいたではないか。すると、おまえは私に『よろしゅうございます。従います』と言った。

2:43 それなのになぜ、【主】への誓いと、私がおまえに命じた命令を守らなかったのか。」

2:44 王はまたシムイに言った。「おまえは心の中で、自分が私の父ダビデに対して行ったすべての悪をよく知っているはずだ。

【主】はおまえの悪をおまえの頭に返される。

2:45 しかし、ソロモン王は祝福され、ダビデの王座は【主】の前でとこしえまでも堅く立つ。」

2:46 王はエホヤダの子ベナヤに命じた。ベナヤは出て行ってシムイを討ち取り、シムイは死んだ。こうして、王国はソロモンによって確立した。

シムイは本来、その悪事によって殺されなければならない人でした。しかし、ソロモンは温情によって、ただキデロン川を渡らないという条件だけで赦していたのです。しかしその条件でさえ、彼は破ってしまいました。

シムイは自分の罪の自覚が薄く、また赦された者であるという自覚も足りませんでした。自分自身が決めた行動によってさばかれたのです。

クリスチャンもまた罪赦された者です。もしも信じないままでしたなら、それはシムイと同じく、自分が決めたことということになります。

私たちは赦された者ですが、その自覚が必要です。イエス様の十字架によってようやく赦された者であることを忘れないで、その教えに従いましょう。シムイのように赦しを軽く見ないようにしましょう。大いに感謝しつつ従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 火曜

列王 I



3:1 ソロモンはエジプトの王ファラオと姻戚の関係を結んだ。彼はファラオの娘をめぐり、ダビデの町に連れて来て、自分の家と【主】の家、およびエルサレムの周りの城壁を築き終えるまで、そこにとどまらせた。

3:2 当時はまだ、【主】の御名のために家が建てられていなかったのに、民はただ、高き所でいけにえを献げていた。

3:3 ソロモンは【主】を愛し、父ダビデの掟に歩んでいた。ただし、彼は高き所でいけにえを献げ、香をたいていた。

3:4 王はいけにえを献げようとギブオンへ行った。そこが最も重要な高き所だったからである。ソロモンはその祭壇の上で千匹の全焼のささげ物を献げた。

3:5 ギブオンで【主】は夜の夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」

3:6 ソロモンは言った。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。父があなたに対し真実と正義と真心をもって、あなたの御前に歩んだからです。あなたはこの大いなる恵みを父のために保ち、今日のように、その王座に着いている子をお与えになりました。」

3:7 わが神、【主】よ。今あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし私は小さな子どもで、出入りする術を知りません。

3:8 そのうえ、しもべは、あなたが選んだあなたの民の中にいます。あまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど大勢の民です。

3:9 善悪を判断してあなたの民をさばくために、聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、この大勢のあなたの民をさばくことができるでしょうか。」

3:10 これは主のみこころにかなった。ソロモンがこのことを願ったからである。

3:11 神は彼に仰せられた。「あなたがこのことを願い、自分のために長寿を願わず、自分のために富を願わず、あなたの敵のいのちさえ願わず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を願ったので、

3:12 見よ、わたしはあなたが言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに、知恵と判断の心を与える。あなたより前に、あなたのような者はなく、あなたの後に、あなたのような者は起こらない。

3:13 そのうえ、あなたが願わなかったもの、富と誉れもあなたに与える。あなたが生きているかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人もいない。

3:14 また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしの掟と命令を守ってわたしの道に歩むなら、あなたの日々を長くしよう。」

3:15 ソロモンが目覚めると、見よ、それは夢であった。彼はエルサレムに行き、主の契約の箱の前に立って、全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを献げ、すべての家来たちのために祝宴を開いた。

ソロモンは自分の能力が、その使命にはまだ足りないことを覚え、謙遜に知恵を求めました。使命のために謙遜になりましょう。何よりもその使命を全うできる、賜物を求めましょう。ものや恵

よりも、いかに主の役割を果たすが大切です。ソロモンは自分の祝福よりも、主の働きを最優先して、その結果祝福を得たのです。

ただし、これほどのソロモンでも「高きところ」で、異教のように香をたいていました。これが不信仰の要因にもなったのです。賜物があるからといって、それで安心できるのではなく、主のみこころに叶うことが大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 水曜

列王 I

3:16 そのころ、二人の遊女が王のところに来て、その前に立った。

3:17 その一人が言った。「わが君、お願いがございます。実は、私とこの女とは同じ家に住んでいますが、私はこの女と一緒に家にいるとき、子を産みました。

3:18 私が子を産んで三日たつと、この女も子を産みました。家には私たちのほか、だれも一緒にいた者はなく、私たち二人だけが家にいました。

3:19 ところが、夜の間に、この女の産んだ子が死にました。この女が自分の子の上に伏したからです。

3:20 この女は夜中に起きて、このはしためが眠っている間に、私のそばから私の子を取って自分の懐に寝かせ、死んだ自分の子を私の懐に寝かせました。

3:21 朝、私が子どもに乳を飲ませようとして起きると、どうでしょう、その子は死んでいるではありませんか。朝、その子をよく見てみると、なんとまあ、その子は私が産んだ子ではありませんでした。」

3:22 すると、もう一人の女が言った。「いいえ、生きているのが私の子で、死んでいるのがあなたの子です。」先の女は言った。「いいえ、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子です。」女たちは王の前で言い合った。

3:23 そこで王は言った。「一人は『生きているのが私の子で、死んだのがあなたの子だ』と言い、また、もう一人は『いや、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子だ』と言う。」



3:24 王が「剣をここに持って来なさい」と言ったので、剣が王の前に差し出された。

3:25 王は言った。「生きている子を二つに切り分け、半分をこちらに、もう半分をこちらに与えよ。」

3:26 すると生きている子の母親は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて言った。「わが君、お願いです。どうか、その生きている子をあの女にお与えください。決してその子を殺さないでください。」しかしもう一人の女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください」と言った。

3:27 そこで王は宣告を下して言った。「生きている子を初めのほうの女に与えよ。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親である。」

3:28 全イスラエルは、王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。神の知恵が彼のうちにあつて、さばきをするのを見たからである。

神様から知恵を与えられたソロモンは、この世のできごとに対しても、よき対応をすることができました。主のために知恵を求めたからです。私たちも神の知恵をいただき、よい働きをして、世のためになりましょう。

また「全イスラエルは...王を恐れた」と、ソロモンの権威が記されています。人を押さえつけるのが権威ではありません。むしろ人を愛し、主を恐れ従い、主と人の役に立つことが、結局権威となることを知りましょう。それは人々からの評価全般に言えることです。

主が生きておられることを信じましょうそして、主からの権威をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



11日 木曜

列王 I

4:1 こうして、ソロモン王は全イスラエルの王となった。

4:2 彼の高官たちは次のとおり。ツアドクの子アザルヤは祭司、

4:3 シシャの子たちのエリホレフとアヒヤは書記、アヒルデの子ヨシャファテは史官、

4:4 エホヤダの子ベナヤは軍団長、ツアドクとエブヤタルは祭司、

4:5 ナタンの子アザルヤは政務長官、ナタンの子ザブデは祭司で王の友、

4:6 アヒシャルは宮廷長官、アブダの子アドニラムは役務長官。

4:7 ソロモンは、イスラエル全土に十二人の守護を置いた。彼らは王とその一族に食糧を納めた。一年に一月分の食糧を各自が納めることになっていたのである。

4:8 彼らの名は次のとおり。エフライムの山地にはフルの子。

4:9 マカツ、シャルビム、ベテ・シエムシュ、エロン・ベテ・ハナンにはデケルの子。

4:10 アルボテにはヘセデの子。彼はソコと、ヘフェルの全地を任されていた。

4:11 ドルの全高地にはアビナダブの子。ソロモンの娘タファテが彼の妻であった。

4:12 タアナク、メギド、またイスラエルの下ツアレタンのそばのベテ・シェアンの全域、ベテ・シェアンからアベル・メホラ、ヨクメアムの向こうまでの地には、アヒルデの子バアナ。

4:13 ラモテ・ギルアデにはゲベルの子。彼はギルアデにあるマナセの子ヤイルの町々と、バシヤンにあるアルゴブの地域で、城壁と青銅のかんぬきを備えた六十の大きな町を任さ



れていた。

4:14 マハナ임にはイドの子アヒナダブ。

4:15 ナフタリにはアヒマアツ。彼も、ソロモンの娘バセマテを妻としていた。

4:16 アシェルとベアロテにはフシャイの子バアナ。

4:17 イッサカルにはパルアハの子ヨシャファテ。

4:18 ベニヤミンにはエラの子シムイ。

4:19 アモリ人の王シホンとバシヤンの王オグの領地であったギルアデの地には、ウリの子ゲベル。彼は、その地で唯一の守護であった。

ソロモンに与えられた知恵は、国を治めるためにも大いに用いられました。それは経済・産業・治安などにも発揮されました。

主かたの守りや繁栄は、単に超自然的な方法によって与えられるだけではなく、このように知恵によるマネジメントによっても、もたらされることを知っておきましょう。

職場、家庭生活、個人のライフスタイルなどに、また教会でも、主の使命のための知恵によって、秩序ある前進をしましょう。その中で、必要に応じて主は奇跡をも行ってくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 金曜

列王 I



4:20 ユダとイスラエルの人々は海辺の砂のように多くなり、食べたり飲んだりして、楽しんでた。

4:21 ソロモンは、あの大河からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境に至る、すべての王国を支配した。これらの王国は、ソロモンの一生の間、貢ぎ物を持って来て彼に仕えた。

4:22 ソロモンの一〇日分の食糧は、上質の小麦粉三十コル、小麦粉六十コル。

4:23 それに、肥えた牛十頭、放牧の牛二十頭、羊百匹。そのほか、雄鹿、かもしか、のろ鹿、そして肥えた鳥であった。

4:24 これはソロモンが、あの大河の西側、ティフサフからガザまでの全土、すなわち大河の西側のすべての王たちを支配し、周辺のすべての地方に平和があったからである。

4:25 ユダとイスラエルは、ソロモンの治世中、ダンからベエル・シェバに至るまでのどこでも、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で安心して暮らした。

4:26 ソロモンは、戦車用の馬のために馬屋四万、騎兵一万二千を持っていた。

4:27 守護たちはそれぞれ自分の当番月に、ソロモン王、およびソロモン王の食卓に連なるすべての者たちのために食糧を納め、不足させなかった。

4:28 また彼らは、引き馬や早馬のために、それぞれ割り当てにしたがって、所定の場所に大麦と藁を持って来た。

4:29 神は、ソロモンに非常に豊かな知恵と英知と、海辺の砂浜のように広い心を与えられた。

4:30 ソロモンの知恵は、東のすべての人々の

知恵と、エジプト人のすべての知恵にまさっていた。

4:31 彼は、どの人よりも、すなわち、エズラフ人エタンや、マホルの息子たちのヘマン、カルコル、ダルダよりも知恵があった。そのため、彼の名声は周辺のすべての国々に広まった。

4:32 ソロモンは三千の箴言を語り、彼の歌は千五首もあった。

4:33 彼は、レバノンにある杉の木から、石垣に生えるヒソブに至るまでの草木について語り、獣、鳥、這うもの、そして魚についても語った。

4:34 彼の知恵のうわさを聞いた世界のすべての王たちのもとから、あらゆる国の人々が、ソロモンの知恵を聞くためにやって来た。

ダビデの治世では許可されなかった、神殿造りが始まりました。ダビデよりもソロモンが優っていたからとは書いてはいません。ただ、今は国力が増し、周辺国も協力的で、神殿建設の事業のチャンスとなりました。

このように主のみざわには、表面的にやりたいかどうかという事よりも、深い摂理があるのです。これまでの主のわざにも摂理を発見して、それが主の主権と知恵によってなされたことを発見しましょう。そして感謝し、主をあがめ、何よりも主のご計画に参加していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





5:1 さて、ツロの王ヒラムは、ソロモンが油注がれて、彼の父に代わって王となったことを聞いて、自分の家来たちをソロモンのところへ遣わした。ヒラムはダビデと常に友情を保っていたからである。

5:2 そこで、ソロモンはヒラムのもとに人を遣わして言った。

5:3 「ご存じのように、私の父ダビデは、周りからいつも戦いを挑まれていたため、【主】が彼らを私の足の裏の下に置かれるまで、私の父の神、【主】の御名のために神殿を建てることができませんでした。

5:4 しかし今や、私の神、【主】は、周囲の者から私を守って安息を与えてくださり、敵対する者もなく、わざわざを起こす者もありません。

5:5 今私は、私の神、【主】の御名のために神殿を建てようと思っています。【主】が私の父ダビデに、『わたしがあなたの代わりに王座に就かせるあなたの子、彼がわたしの名のために家を建てる』と言われたとおりです。

5:6 どうか、私のために、レバノンから杉を切り出すように命じてください。私の家来たちも、あなたの家来たちと一緒に働きます。私はあなたの家来たちに、あなたが言われるとおりの賃金を払います。ご存じのように、私たちの中にはシドン人のように木を切ることに熟練した者がいませんから。」

5:7 ヒラムはソロモンの申し出を聞いて、大いに喜んで言った。「今日、【主】がほめたたえられますように。主は、この大いなる民を治める、知恵のある子をダビデにお与えになった。」

5:8 ヒラムはソロモンのもとに人を遣わして言った。「あなたが言い送られたことを聞きました。私は、杉の木材ともみの木材なら、何なりとあなたのお望みどおりにいたします。」

5:9 私の家来たちは、それをレバノンから海へ下らせます。私はそれをいかだに組んで、海路、あなたが指定される場所まで送り、そこでそれを解かせましょう。それを受け取ってください。それから、あなたは私の一族に食物を与えて、私の望みをかなえてください。」

5:10 こうしてヒラムは、ソロモンに杉の木材ともみの木材を、彼が望むだけ与えた。

5:11 ソロモンはヒラムに、その一族の食糧として、小麦二万コルと上質のオリーブ油二十コルを与えた。ソロモンは、これだけの物を毎年ヒラムに与えた。

5:12 【主】は約束どおり、ソロモンに知恵を授けられた。ヒラムとソロモンとの間には平和が保たれ、二人は契約を結んだ。

5:13 ソロモン王は全イスラエルから役務者を徴用した。役務者は三万人であった。

5:14 ソロモンは、彼らを一か月交代で一人ずつレバノンに送った。一か月はレバノンに、二か月は家にいるようにした。役務長官はアドニラムであった。

5:15 ソロモンには荷を担ぐ者が七万人、山で石を切り出す者が八万人いた。

5:16 そのほか、ソロモンには工事の監督をする長が三千三百人いて、工事に携わる民を指揮していた。

5:17 王は、切り石を神殿の礎に据えるために、大きな石、高価な石を切り出すように命じた。

5:18 ソロモンの建築者たち、ヒラムの建築者たち、そしてゲバル人たちは石を切り、神殿を建てるために木材と石材を準備した。

ヒラムは異邦の王であり、異教の王でした。が、主のために用いられるのです。このことに関しては、後のソロモンの失敗も含めて、重要なことを学ぶことができます。

すなわち、よき信頼関係によって「友情」を保つこと、またその異教を持ちこまないことです。そのようにしてノンクリスチャンの方とも交流を深めましょう。それはヒラム「【主】がほめたたえられますように。」と言ったように、伝道にもつながってゆくことでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 イスラエル人がエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルの王となつてから四年目のジブの月、すなわち第二の月に、ソロモンは【主】の家の建築に取りかかった。

6:2 ソロモン王が【主】のために建てた神殿は、長さ六十キュビト、幅二十キュビト、高さ三十キュビトであった。

6:3 神殿の本殿の前に付く玄関は、長さが神殿の幅と同じ二十キュビト、幅が神殿の前で十キュビトであった。

6:4 神殿には格子を取り付けた窓を作った。

6:5 さらに、神殿の壁に、すなわち神殿の壁の周り、本殿と内殿の周りに、脇屋を建て巡らした。こうして階段式の脇間を周りに作った。

6:6 脇屋の一階は幅五キュビト、二階は幅六キュビト、三階は幅七キュビトであった。それは、神殿の外周りの壁に段を作り、神殿の壁を梁で支えずにすむようにするためであった。

6:7 神殿が建てられたとき、石切り場で完全に仕上げられた石で建てられたので、工事中、槌や斧や、いかなる鉄の道具の音も、いっさい神殿の中では聞こえなかった。

6:8 二階の脇間に通じる入り口は神殿の右側にあり、螺旋階段で二階に、また二階から三階に上るようになっていた。

6:9 ソロモンは神殿を建て、これを完成させるにあたって、神殿の屋根を杉材でできた雨水溝の列でおおった。

6:10 神殿の側面に脇屋を建て巡らし、その各階の高さは五キュビトにして、これを杉材で

神殿に固定させた。

6:11 そのとき、ソロモンに次のような

【主】のことがあった。

6:12 「あなたが建てているこの神殿のことであるが、もし、あなたがわたしの掟に歩み、わたしの定めを行い、わたしのすべての命令を守り、これによって歩むなら、わたしはあなたについてあなたの父ダビデに約束したことを成就しよう。

6:13 わたしはイスラエルの子らのただ中に住み、わたしの民イスラエルを捨てることはしない。」

どんなに立派な神殿を建てても、神様が認めてくださらなければ、何の意味もありません。ですから神様はわざの途中で、警告と約束を与えられました。

私たちの日常の働きも同じです。主のご計画がありますから、それが完成するまでチェックしましょう。その働きの途中でも、何度も何度も主のために役立っているか、みこころに叶っているかどうかを確認しましょう。

始まりが主のみこころであっても、いつの間にか変わっていることも多いのです。特に重要なのは、私たちの動機です。

私たちの努力に主が臨在してくださるようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

